



柿と大根干し 青森市田茂木野地区の風景。

【撮影】平成30年10月下旬 青森地区保護司会 樋口 修三（広報部）



発行：青森地区保護司会
青森市長島1丁目3-28
青森県更生保護会館プラザあすなろ
青森地区更生保護サポートセンター内
TEL 017-763-0763
編集：広報部

保護司成り立て



青森地区保護司会
会長
天内 修

私は、平成7年3月1日、保護司拝命。それ以前の平成5年ころから、故・廣澤信行氏（元青森県保護司会連合会会長）から、保護司へのお誘いの声を何度もお掛けいただいた。浅学非才故と、その都度お断りしていたが、熱心なお誘いの言葉に根負けし、承諾したのを臍氣おぼろけの記憶している。承諾したものの保護司としての自信は全くなく、不安なまま青森市長島4丁目にあった旧青森地方方法務合同庁舎内の青森保護観察所で保護司委嘱状をいただいた。保護区は、青森地区の第一分会であり、青森市の堤川から東方面、平内町まで。委嘱後すぐに対象者をまかされ、書類の書き方や手引書を見ながらもなかなか理解できず、何度も主任官に電話をし、教えを請ったものです。主任官には、どんなにか物覚えの悪い保護司だと思われたことか。

第一分会の大方の皆さんは、私の親ほどの年の差があり、自主研修など会合に参加するたびに恐縮したものです。当時、まだツイン提携の盟約を結ぶ前でしたが、函館地区保護司会の「市民の集い」にも、分会長の故西洋勝見氏から誘われ、第一分会の有志7〜8名で行きました。函館の保護司さんは、こんなにも素晴らしい広報活動をしているのかと感動しながら帰ってきました。

（翌、平成8年春にツイン提携の話が持ち上がり、秋の10月11日盟約締結となりました）委嘱2年目に第一分会の会計を任せられ、お金を預かることに緊張しながらも、これまた、皆さんに様々なお話をいただき助けられました。当時は、保護司への実費弁償金が、地区保護司会から各分会へ振り込まれ、分会の会計担当者が各保護司さんへ、現金での手渡しでした。青森市内は、まだよろしかったのですが、平内町の方々にはすぐにお渡しできず、ご迷惑をかけることたびたび。でも、保護司さん宅で、お茶を飲みながら色々なお話を伺うことができ、人生経験の少ない私にとっては、一つひとつのお話がとても有り難く勉強になりました。

私は、子供のころよく母親に言われました。「この、カラッポネヤミ（怠け者）。学もなし、才もなし、でも、何とか保護司をここまで続けてこられました。まわりの保護司さん、友人や知人の一言一言が、とても有り難く感謝しております。」

第68回 社会を明るくする運動
 ～ 犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ ～

北中学校
 【来年度 浪打中学校】

毎年7月は「社会を明るくする運動」「強調月間」「再犯防止啓発月間」で、今年度の中学校との連携は北中学校で7月18日、開催されました。全校生徒数97名、教職員15名、ほか保護者・地域関係者・保護司を含め約60名。

【第1部】講演
 「見えない恐怖」
 ～ ネットトラブルにならないために ～
 青森県警察本部保安課サイバー犯罪対策室
 サイバー防犯ボランティア
 青森公立大学・地域未来科の学生

【第2部】演奏
 陸上自衛隊 第9音楽隊



【第1部・講演】青森公立大学の学生と全体の風景



社明のぼりてアピールした北中学校



開会セレモニー
 写真左から(代理)保護司会鳴海副会長、
 (代理)杉野森統括保護観察官、
 (代理)青森市福祉部長
 保護司会小豆畑地域活動部会長



全校合唱「大切なもの」



ホゴちゃんも応援に



齋藤校長へ
 内閣総理大臣メッセージの伝達



第1部 講演する青森公立大学の学生



保護者と保護司のみなさん



齋藤校長あいさつ



第2部 陸上自衛隊 第9音楽隊による演奏



お礼の言葉 赤坂生徒会長



全校生徒による校歌斉唱



今年の啓発ポスター



閉会のあいさつ
 (代理)保護司会鳴海副会長



1年 石澤 葉瑠

「社会を明るくする運動」に参加して 北中学校 生徒の感想文

生徒代表の感想文を
掲載させて頂きました。



2年 奥谷 来

3年 赤田 備

今日は、「社会を明るくする運動」というめつたに体験できないことを体験できて、私とはとても嬉しい気分でした。本当に貴重な体験ができた実感しています。今回は、青森公立大学の学生さん2人が「インターネットの扱い方」の講話は前半にたっぷり話してくれました。このような講話なども小学校の時もやっていました。やはり、中学校でもしっかりと確認しておかなければ、突然インターネットを改め理解できませんでした。今回の講話の中で私が一番大事だと思った事は2つあります。1つ目は、ネット上の書き込みは全て正しいとは限らない。2つ目はネット上の友達とは絶対、直接会ってはいけません。この2つは今回とても重要だと思えます。大学生の2人は自分の実体験も加えて話してくれたので、とても頭に入りやすかったです。私もプレゼンや講話をする時は大学生たちのようにスムーズに進めてみようと思います。つまり、スマホ(ネット)は危険だと言うことを改めて実感することができました。私もスマホを持つているので十分に気をつけたいと思います。

第二部は陸上自衛隊・音楽隊の演奏を30分間聞きました。最初はずつとマイクのそばで吹いているのと思ったけど、先生に聞いたら、生演奏だとわかってびっくりしました。それほど迫力がありました。その迫力は言葉で表せないことです。そんな貴重な体験ができた私は幸せ者だと思います。私は学生さんや自衛隊の人たちのようにたくましい大人になりたいと思います。

7月18日、北中を会場として社会を明るくする運動が行われました。第一部。見えない恐怖について講話がありました。私自身もSNSを利用しているのでも、とても興味深いお話でした。実際に会ったことも交えながらの講話だったので身近にもたたく恐怖を感じたのは、任んできました。私が一番恐怖を感じたのは、任んではいる場所などを特定されてしまう事です。自分のプロフィール画面にしている写真や、みんなに公開している写真を見られる、すぐに特定されてしまうという聞き、鳥肌が立ちました。何故かと言うと私も友達との写真を公開したことがあるからです。住所や学校を知られてしまうと家族や友達、先生方にも迷惑がかかってしまいます。だから私は「写真の公開設定をすること」を撮るときの服装や場所は十分に気をつけること」の大切さを学びました。それから、なり高生になりすまして怖かったです。成人男性が女子からです。騙されたいないために「相手は誰か」とまず忘れてはいけません。誰か、だ

第二部。自衛隊の音楽隊の方々が、たくさん曲を演奏してくださいました。特にジブリメロデーでは、次々と曲が変わっていく場面がありとても感動しました。いろいろな楽器の音が重なり合い、きれいな音色が体育館中に響いていた様子は、一生の思い出となりました。

第68回を迎えた社明運動。第一部では見えない恐怖から自分を守ることで、第二部では音楽隊の方々の演奏で社会を明るくできることを学びました。今回学んだこと全てが、これからの私たちにあってとても大切なことだと思えます。貴重な体験ができたことに感謝し、学んだことを活かしながら、私たちの力で社会を明るくしていきたいです。

7月18日に、北中学校で「社会を明るくする運動」が行われました。この社会を明るくする運動は、第一部、第二部に分かれて行なわれました。第一部は「見えない恐怖」ネットトランプにならないために」と言う演題で、インターネットSNSについて話を聞きました。SNSには、いろんな種類があつて、ツイッターやフェイスブック、ライン等もその仲間であることを知りました。また、インターネットは、とても便利なものでも、使方を一歩間違えてしまえば、人を傷つけてしまうものになってしまえば、人を傷つけないように、内容を信用しすぎない、人を傷つけないように、内容を信用しすぎない、人を傷つけないことがたくさんあり、文字でしか伝わらないので相手のこともしっかりと伝えていくことが大切だと思えました。もし、ネットトランプに巻き込まれてしまったら、悩みを抱え込まず相談することが大切だと思えました。これからは、ネットの使い方に気をつけ、有効的に使用していきたいと思えます。

第二部は、青森自衛隊第9音楽隊の演奏を聴きました。私は、生で目の前で演奏の演奏を聴けるとすくくワクワクしていました。実際に演奏を聞いて、とても感動していました。音量と音色には、迫力があつて圧倒されました。音量和音色には、私が特に印象に残っているのは、「アニメメロデー」です。その中でも「天空の城ラピュタ」の主題歌の曲です。アニメも歌も好きで、まさか生の吹奏楽の演奏で聞けたのが嬉しかったのです。私も、誰かを感動させたい、そんなものを作り上げられるように頑張りたいと思います。社会を明るくする運動を通して、とても良い体験ができたことをうれしく思います。

工夫いっぱい 分会だより



第1分会
西平内中学校での
社明ミニ集会



【酢谷 奈保子】

1分会での第68回社会を明るくする運動は、7月17日、平内町の西平内中学校で開かれました。同校先生、生徒と1分会の保護司、更生保護女性会から合計約60人が参加し、社会を明るくする運動について理解を深めました。1分会総務で、警察官OBの山形民雄先生が、論語の中から

第2分会
筒井中学校での
「非行について考える」



【鬼柳 久美子】

②「其れ恕か。己の欲せざれる所、人に施すこと勿れ。」
それは、「思いやりの心」です。自分が人からされたくないというような、いやなことを、人に押しつけたりしないということだ。についてお話しをしました。その後、社会を明るくする運動広報ビデオ「二つの道」を視聴。生徒たちは、真剣な眼差しで聞き入っていました。
1分会ではこの他7月14日、平内町役場において内閣総理大臣メッセイジ伝達、平内教育委員会訪問なども行いました。

2分会のミニ集会是7月27日、筒井中学校視聴覚室にてJUM Pチーム16名、先生5名、少年鑑別所職員2名、2分会保護司10名が参加し、開催しました。
初めに岩田校長の挨拶、天内地区保護司会会長挨拶後、参加者全員の自己紹介、そして青森少年鑑別所法務教官主席専門官の丸山氏、法務教官専門官の下村氏を迎え、「非行について考える」と題して講義を開催。
プロジェクトを使って、スマホで多くの人が使用している



第3分会
甲田中で、少年鑑別所の教官による講演



【伊藤 尚三】

毎年行っています甲田中学校での社明運動、今年も昨年引き続き続いて青森少年鑑別所に依頼し7月14日(土)午前中、体育館にて行いました。
今回も内容については学校側と打合せをし、少年鑑別所の松岡由起子氏による「SNSを正しく使うには」のタイトルで講演をしました。
夏休みを前に生徒たちが非行に巻き込まれないようにと学校演劇部の生徒たちの音声を入れながら出来るだけ身近なトラブル事例を取り入れ講話してくれました。

ソフトの「LINE」での対話を演劇風にアレンジし、その中で少年たちの心の動揺などを表現した場面などの様子がよくわかりました。
またコンビニなどで万引きをした時に店舗には、どれくらい迷惑をかけてしまうのか。(精神的・金銭的)を、わかりやすく説明してくれました。
その後、社明啓発映像「鉄拳さんのパラパラマンガ」を視聴、昼食をとりながら意見交換をしました。生徒たちからは『良い事は良い、悪いことは悪い』とはつきり言えるようにしたいと言う意見が多く見られました。

内容についてはステージ上のスクリーンに状況を映し生徒たちの中に入って講話する模様は、昨年同様で好評でした。
前もってマスコミにも声がけをしておいたので当日はRABテレビが取材し昼のニュースで放映してくれ、また東奥日報では、7月26日に掲載してくれました。
毎年、夏休み前の恒例行事となっている社明運動については生徒たちに好印象を

(新)山下法務大臣が、10月2日(火)



参加されました皆様お疲れ様でした。今後の更なるご活躍を...

持たれ学校側としても生活指導要綱の一環として喜んでおります。



第4分会 新城まつりでの社明広報活動



【小野寺 幸治】

第4分会が社会を明るくする運動の地域活動として「新城まつり」を通して広報宣伝活動を行うようになったのは平成20年度から今年で11年目を迎えました。この社明の広報活動で一番苦労しているのが、保護司の皆さんの協力を得るのは、なかなか難しいと言ったことでした。保護司の皆さんもそれぞれ事情もあり、地域でも活躍されている方が多いので、気持ちはあっても都合のつかなかった方が多かったと思います。そういうことからいつも限られたメンバーでや

ってきたと言うのが実情であります。今年はそのようなことにならないよう人数だけは確保しなければと、早くから声がけし、8名の保護司の方々の了解を得て、第26回の「新城まつり」に望みました。

当日の8月18日には、午後3時に西部市民センターへ集合し、社明のぼり旗を設置し、社明広報資料、薬物乱用防止広報チラシ、うちわ、ティッシュ等を袋づめし配布作業に備えました。そしてプログラム通り午後5時半より出番となり、小豆畑副分会長よりまつり実行委員長へ、総理大臣メッセージが伝達され、その後、私たち保護司が、まつり会場に来てくれた多くの方々に準備した社明グッズを配布いたしました。短い時間でしたが今年も第4分会の大事な事業が



今年も第4分会の大事な事業が

第5分会 浪岡地区の夏の風物詩「納涼夜店まつり」での社明活動



【鎌田 喜代志】

やつと終わったと言う安堵感でホッとしたというのが正直な気持ちでした。各分会ともいろいろと工夫して関連事業を実施しているようですが、第4分会では11年間も続いた「新城まつり」での広報活動を、これからも継続していくところを意識があると考え、これからも一人でも多くの保護司の皆様に参加していただくよう努力していかねければならぬと思います。

毎年、小中学校が夏休みに入った最初の土日の夜は、浪岡地区の商店街は久々に通りに人が溢れ、賑やかになります。これは、浪岡地区の駅通り商店街、銀座通り商店街、川原町商店街の3つの商店街が、青森市の補助を受けて30年以上、毎年この時期行っているものです。

この2日間、午後6時から3時間は、歩行者天国となり、夏休みとなり開放感全開の小中学生たちや、子供連れの若い親、カップルが、商店街それぞれの3会場での、音楽イベント、出

法務省に登庁し 記者会見を行いました。

店での飲食を楽しんでいます。今年、浴衣着用者優遇ということで、記念写真無料撮影、豪華賞品抽選会を行い、華やかさを添えています。5分会ではこの人出を利用して、分会員総出で、チラシ・ポケットティッシュ・うちわを配布し、社明活動を実施しています。

スケッチ

青森保護観察所の本平所長が社会を明るくする運動の広報を兼ねて、青森マラソンに参加しました。無事完走できました。お疲れさまでした。



本平所長

青森保護観察所の山川統括社会復帰調整官と函館保護観察所の保護観察官も一緒に参加しました。

～青森市と函館市の双子都市交流～
青函地区保護司会ツインシティ提携合同研修会
 日時 / 平成 30 年 9 月 21 日 (金) 会場 / リンクモア平安閣市民ホール



講義する山田英治氏

2年毎に実施されている青函地区保護司会ツイン提携合同研修会・交流会は、今年度で22年目を迎えました。9月21日、青森地区保護司会が幹事となり開催され、青森地区からは49名、函館地区からは32名の参加。

研修Ⅰ「講義」は青森家庭裁判所・次席家庭裁判所調査官・山田英治氏が講師となり「非行・犯罪をした者に対する動機づけ面接」「その気になる」行動変容をサポートするコミュニケーションを、研修Ⅱ「講

**平成8年から始まった交流の研修会
10年間は毎年開催しその後、隔年に**

演一は、三厩の義経伝説を語る会・遠間善弘氏を迎え、「義経北行伝説」―義経海を渡る―と題して話されました。

また研修後、意見交流会が同館1階の「スケルツォ2」で開催され、青森保護観察所・本平所長のミニコンサート（ギター・ピアノ演奏に合わせてのカラオケなど）があり、さらに交流を深めました。



演奏する本平所長と歌う田邊保護司



講演する遠間 善弘氏

本平青森保護観察所長、里村市議会議長より祝辞をいただき、益金贈呈、青森地区保護司会長より謝辞、来賓を紹介しました。

各地区更生保護女性会や賛助会員の舞踊・唄などが披露され、今年も青函交流で函館地区保護司会・更女会からの参加もありました。



写真中央右 函館地区保護司会、(新)岡会長
写真中央左 青森地区更生保護女性会 神会長

「広げよう非行を防ぐ地域の輪」「ふれあいと対話が築く明るい社会」のテーマの下、第37回みんなのつどいが、7月22日(日)リンクステーションホール青森で開催されました。神和子実行委員長(青森地区更生保護女性会長)挨拶のあと、小野寺青森市長、

青森地区更生保護女性会
 社会を明るくする運動
みんなのつどい



オープニングは保育園児の発表、舞踊、唄、ダンス、民謡、三味線など多彩な発表会です。

平成30年9月1日付

新任保護司紹介

「保護司の委嘱をうけて」

- 外崎 玄(1分会)
- 笹森 康之(2分会)
- 山本 光蔵(1分会)
- 坂本 浩司(4分会)
- 中田 靖人(1分会)
- 米谷 恵司(4分会)

寄稿された新任保護司を掲載しています。



山本 光蔵
やまもと こうぞう
 第1分会
 青森市合浦2

平成26年に38年間勤めた警察官を退職し、現在は公益財団法人青森県暴力追放県民センターで相談員として勤務して5年目になります。

暴追センターも来春で退職になります。心の片隅にほろりと退職後は今までの経験を生かして、何かボランティア活動をしたい。と言う気持ちを持っていたところ、保護司で職場の先輩から勧めがありました。保護司の委嘱を受けさせていただきます。

このたび、2日間の新任研修で、更生保護制度、面接の基本等について受講をしましたが、保護司の保護観察対象者に対する誠実な接し方が、改善更生に大きく影響し、結果、地域の犯罪予防につながるということを強く感じました。

今後とも研修会等において自己研鑽に努め、微力ながらも保護司として地域に貢献したいと思っておりますのでよろしくお願いたします。



笹森 康之
ささもり やすゆき
 第2分会
 青森市橋本2

この度の保護司委嘱は、更生保護施設に2年3カ月勤務し8月に65歳を迎えての事である。約2年前、知人よりの情報紹介で拝見した求人票。仕事の内容は刑務所出所者等の自立支援業務1.何々2.何々と4つ程の業務内容が書かれていた。今でも鮮明に覚えている。挑戦の職種及び仕事内容ではあるが、即時に、この仕事は自身が出来ると判断しての応募であった。高齢者(55歳以上)の就職支援に携わってきた経験から、支援の中心は全く違いますが、支援対象者が喜んでくれるのであれば、「こんなやりがいのある仕事はない」と応募時は思ったものである。

業務遂行で補導員の補佐的な仕事を通して学習してきたが、更生保護施設入所者が遵守事項を守り且つ「一定期間内に更生する」というのは至難の業であると認識している。

こういった状況を鑑みれば、通常の社会生活の中で担当する対象者の再犯の防止の観点上、経験を積んで慣れるまでは相当のプレッシャーを感じるからの仕事になるであろうか。

保護観察官及び先輩保護司の方のご指導を賜りながら、自身が生活する地域に於いて、まずは1件担当し保護司の役割を果たしていきたいと思えます。



米谷 恵司
よねや けいじ
 第4分会
 青森市柳川2

2016年3月青森県更生保護協会評議員をお引き受け致しました。それはその役割を良く知らなかった為軽い気持ちで引受けました。それに対して今回の保護司のお誘いについては多少役割を知っていたし、知人が努めていた事もあり、私などに務まるか、相当忙しいのではないかなど悩み、躊躇っておりました。

しかしここ数年は私を必要とするのであれば、私で良ければと思いきや色々な公職を引受けておりました。そんなスタンスに立ちかえりお引受けする事に致しました。2週にわたる研修会ではわからない事だらけでした。しかし人との関わりが好きな私ですから何とかなるというポジティブに考えるようにしました。何事も経験です。世の為、人の為として自身を成長させる為最後まで務めさせて頂く所存です。



坂本 浩司
さかもと こうじ
 第4分会
 青森市新城山田

この度、9月より保護司として委嘱をうけ、青森第4分会で活動することになりました。坂本浩司です。

保護司として依頼が来た時に、最初に浮かんだことが、一体何をやるのだろうかという、不安でした。保護司という言葉を聞いたことはありましたが、具体的に何をやるのか分らなかったし、活動している所を見たことがなかったためです。

新任研修を通して、基礎的なことを知ることはできましたが、まだまだ不安を掻き消すには至っていません。でも、引き受けたからには、自分なりにできる範囲で頑張りたいと思っています。

諸先輩方に助けていただきながら、これから頑張つてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。



第68回社会を明るくする運動「街頭広報活動」

市役所駅前庁舎(アウガ)前&中三デパート前で 小野寺市長(社明推進委員長)と共に啓発活動!!



アウガ前・中三前 7月14日(土)



青森ねぶた祭り 8月3日(金)

「アウガ・中三前」 「社会を明るくする運動」地区推進委員長(小野寺青森市長)、天内青森地区保護司会長・小豆畑地域活動部会長、地域活動部会員、企画調整保護司が参加しました。「黄色い羽根」社明広報グッズを配布。約1時間程の活動でした。
【青森ねぶた祭り】 県保護司会連合会、青森保護観察所、青森地区保護司会が参加し、青森市PTA連合会ねぶたに参加、横断幕・社明のぼりを持ったり、うちわ・広報用チラシを沿道の観客に配布しました。

(あしがき)

残暑がまだ残り、朝晩めっきり寒くなり体調管理が大切な季節となりました。

さて、9月末3泊4日で実施されました青森県更生保護協会主催の「長崎県長崎市・諫早市・佐世保市を巡る研修旅行」に私他13名で参加いたしました。この初開催の旅行について簡単に紹介いたします。

はじめに訪問したのは、長崎保護観察所で、所長さんや職員の皆様が温かく迎えてくださいました。ここでは、長崎県地域生活定着支援センター所長の伊豆丸剛史氏による、「やさしい社会への処方箋」と題した講話を拝聴。全国で初めてモデル的に開設されたセンターの現在までの状況を照会。特に今年の2月13日、NHKで放送されたドキュメンタリー番組「ETV 特集」『居場所があれば立ち直れる』を映像で紹介。これはとても参考になりました。その他、長崎刑務所見学や、更生保護施設「長崎啓成会」の見学と情報交換会など、交流の大切さを学んだ研修旅行でした。

※長崎刑務所は、明治の五大監獄(奈良、金沢、千葉、鹿児島、長崎)の一つ。

現在550名の受刑者を収容。(覚醒剤35%、窃盗51%)。職員225名。

【広報部員 佐々木 雅久】



長崎県 更生保護施設 「長崎啓成会」

平成30年度

県央ブロック保護司研修会【青森市】

青森地区保護司会 野辺地地区保護司会 むつ下北地区保護司会

講義「保護観察における不良措置について」

講師 青森保護観察所 統括保護観察官 杉野森 信雄氏

講演「健康さがしの旅」～すい臓がんステージⅣを体験して学んだこと～

講師 協同組合タッケン 川嶋 勝美氏



講師の杉野森氏と参加者の皆さん



講師の川嶋 勝美氏

講義では、主に遵守事項違反(不良措置)とその手続きについて解説があり、保護司は直接携わらない事ですが、どのようにして遂行されるのか良く理解できたようです。また、講演では、すい臓がんを体験し、助からないと宣告され寛解までの生々しい生き方を紹介、現在は食事・運動・社会生活・心に気を使い、「人を助ける喜びは細胞を健康にする」「利他行動」で青春を謳歌したいと話されていました。